



平成 27 年度 JICA 貿易投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント(C)
- JICA Capacity Development for Export and Investment Promotion (C)

研修期間：平成 27 年 7 月 21 日（火）～8 月 7 日（金）（3 週間）

研修場所：神戸/東京

研修内容：環インド洋経済圏のアフリカ・アジア諸国における貿易投資促進に関する講義
/視察

参加研修員：8 名

（エチオピア 2、ケニア 1、タンザニア 1、スーダン 1、モーリシャス 1、スリランカ 2）



閉講式にて、8 名の研修員は 3 週間日本での研修を終え、マレーシアでの補完研修(1 週間)へ出発しました。3 週間の日本滞在で、研修員同士の絆も深まりました。

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、貿易投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント(C)研修を実施しました。

急速な都市化が進んでいることから、多くの日系企業も進出している東南アジア・南アジア、そして、近年目覚ましい経済成長を見せているアフリカ、これらの国々を包括する広大なエリアである「環インド洋経済圏」への関心が、日本でも、高まりを見せています。

本研修は、環インド洋経済圏に属するアフリカ諸国とアジア諸国の経済関係が貿易・投資という観点

から強化されることを目的として、アフリカ諸国(エチオピア・ケニア・タンザニア・スーダン・モーリシャスの 5 か国)に加え、アジア・スリランカから貿易振興及び投資促進を担当する行政官 8 名が神戸及び東京での研修に参加しました。

3 週間のプログラムでは、貿易・投資促進において重要な概念についての講義の他、同じ「環インド洋経済圏」に属する国々の産業振興策・貿易投資促進策の実例を紹介し、発展モデル及びその背景にある産業政策についての講義を設け、自国産業の現状・比較優位を理解した上で、政府がリーダーシップをもって貿易投資政策を実施することの重要性を学びました。

また、研修終盤には昨年度同様、海外進出を検討する企業を対象にした公開セミナーを開催し、研修員がプレゼンターとなり自国の産業や貿易・投資促進策をアピールしました。投資を行う側である企業から、貿易・投資相手国に求める政策や戦略などについて質問や意見が出されました。様々な業種の企業担当者の方にお集まりいただき、研修員が直接企業側の視点を学ぶ貴重な機会となりました。

研修員は講義・視察を通じて日本を含むアジア諸国の経済発展の歴史と現在、その背景にある産業政策を学び、政策当局の担当者として自国の経済発展のために何ができるかを考察しました。研修で学んだ内容を基に自国の具体的な貿易・投資促進策（アクションプラン）を作成し、最終日にその発表を行いました。日本での研修修了後はマレーシアでの 1 週間の補完研修に参加し、現地の講義視察を通じて、日本で学んだ知識を深めました。



本研修の対象となっている環インド洋経済圏とは、インド洋をとりまく国々が形成している経済圏であり、広くオセアニア、東南アジア、南アジア、中近東、アフリカまでをも含みます。長期的に高度成長の中心となる可能性が高いといわれるこの「環インド洋経済圏」には、経済界から熱い視線が注がれるようになっていきます。

この機会を捉え、貿易や外国投資をいかにして自国の持続的な開発と産業発展に結び付けることができるのか、その方策を学びとるために、多様なプログラムを実施しました。

まずはコースリーダーによる基調講義で、「環インド洋経済圏における経済相互作用の向上～貿易投資の役割～」について説明いただき、同経済圏の現状と各国が取り組むべき課題について共通認識を形成しました。その後、株式会社日本総合研究所から講師を迎え、日本企業



講義にてディスカッション。研修員同士でも活発な意見交換がされました。

企業が投資先を決める際に重要視するポイントや、環インド洋経済圏の消費市場・労働市場への関心の高まりなどに触れ、企業の海外進出を支援してこられたご経験に基づく、具体的な事例をご紹介いただき、研修員とともに意見を交わしました。

この他、モザンビークにおけるアルミニウム精錬会社設立プロジェクト、バングラデシュにおける衣料産業の発展、マレーシアでのプラスチック射出形成産業の発生と発展など各国の産業発展事例を紹介する多様な講義を設定しました。研修員からは「アジア諸国の発展モデル

から自国のモデルケースとなる国を検討し、今後自国が取る政策を検討する上で非常に参考になった」との感想があり、大変有意義な講義となりました。外国からの投資を呼び込んだ産業発展は、雇用創出のみならず、地元中小企業の活性化、物流システムの整備など自国の関連産業を発展させ、大きな経済発展へつながることが期待できます。そのためにはインフラ設備や、地元企業の発展が投資誘致の要となります。研修員同士でも「魅力的な投資先の条件」などについて積極的に意見交換する機会が見られました。



グランフロント大阪で開催された「貿易・投資セミナー」には多くの関西企業の方々にお集まりいただきました。

第3週目には日本が誇るものづくりの原点を探るべく、中小企業の製造現場を視察しました。生産性向上のための取り組みである「カイゼン」、その概念と内容を学ぶために、東大阪の株式会社山田製作所を訪問しました。社長の熱意と共に社員が一丸となってカイゼンに取り組む同社工場は、部品置き場の一つを例にとっても並び方に工夫が見られ、研修員からも、「高性能な日本の製品は、企業がカイゼンで絶え間ない努力を続ける結果であり、自分も国に帰ったらまずは身近なことから自ら率先して実践していきたい」と、コツコツとした努力を惜しまない日本

の姿勢を称賛し、ぜひ取り入れたいとの声が上がりました。

本研修の終盤には昨年度同様「貿易・投資セミナー」をグランフロント大阪にて開催し、多くの関西企業の方々にお集まりいただき、昨年度を大きく上回る参加者数となりました。セミナーでは6か国それぞれが自国の主要産業についての紹介や魅力を積極的にプレゼンテーションしました。事前リハーサルでは各国とも紹介したい内容が多すぎて時間内におさまらず、いかに簡潔に聞き手のアテンションを惹く手法について講師からアドバイスを得て、当日は限られた時間内での大変効果的な情報発信となりました。



セミナーで発表を行うエチオピアからの研修員。オーディエンスの関心を惹くために、ポイントを絞ったプレゼン内容、研修員の正装も印象的でした。

研修最終日の評価会では、研修員からは「日本人は礼儀正しく、親切、忍耐強い」「魅力的な文化を持つ素敵な国」など多くの感想をいただきました。研修を通して、貿易促進に関する知識のみならず、多くの方々と交流し、3週間の生活の中で、「日本」を感じ、経験してもらえたこと、帰国を惜しむほど「神戸」に思いを寄せてもらえたことを大変嬉しく思います。そして研修員それぞれが日本で学び考えた事を自国の職務に活かし、各国が更なる発展を遂げることを期待しています。

研修担当：馬場 愛子

委託元機関 : 独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター
研修コースリーダー : 神戸大学大学院国際協力研究科 高橋 基樹 教授
講義/視察先 : 神戸大学/株式会社日本総合研究所/マレーシア投資開発庁大阪事務所
/アジア経済研究所/東京大学/武蔵大学/北海道当別町/
デベックス日本支社/KT1 株式会社/株式会社山田製作所/九州大学/
神戸市みなと総局/阪神国際港湾株式会社/株式会社上組/同志社大学
【順不同】



国名：モーリシャス
名前：Ms.GANUB Jovencia Bete
所属：ボホール州 衛生室 行政官

Coming to Japan for the first time as a JICA participant has been a wonderful experience. The sense of hospitality of the Japanese people is really remarkable. It began at the airport itself where I was warmly greeted by JICA staff and had a taxi waiting for me.

We went visit the famous Akashi Kaikyō Bridge also known as the suspension bridge. On our way we had a fun time walking around the city and going on top of buildings to have a complete view of the city. It was really impressive to see so many tall buildings, many of which are actually quite new, as they have been rebuilt after the last earthquake. What was nice was the ease with which one could walk around the city as the walkways are so spacious and although there are many people, it does not feel crowded. Also the walkways are lined with such gorgeous flowerbeds or gardens that it is impossible not to stop for a few snapshots.

As a foreigner what has also impressed me about the Japanese is their kindness. They are so prompt to offer assistance. I remembered that we went shopping but could not find the shop we were looking for although we had a map. We stopped a Japanese lady who was on her bike to ask for directions. As we learnt a few useful Japanese phrases, we formulated our query in Japanese. She starting explaining but then sensing that we could not understand, she pointed the directions to us. As we started our way, she went in front of us

on her bicycle, leading the way for us. She accompanied us all the way to the shop. That was so nice and kind of her.

Talking about the Japanese people, it is impossible not to mention their resilience and their quest for continuous improvement. Even after meeting setbacks, they do not give up and keep persevering. This attitude combined with their quest for continuous improvement (also known as “kaizen” in Japanese) is at the very basis of their organizational success and eventually their economy. This is so inspiring.

Finally, the best thing about the training was the training itself. It was well organized with lectures delivered by professors from university or renown institutions with plenty of and knowledge and experience about their subject. As the lectures were highly interactive, they were very stimulating and enriching. At the same time, these lectures proved to be a powerful eye-opener in terms of areas of improvement for our respective country.



JICA 研修員として日本には初めて来ましたがとても素晴らしい経験となりました。日本人の親切なおもてなしは特に素晴らしいものでした。それは、空港に出迎えに来てくださった JICA 職員、待機してくれていたタクシーから始まりました。

日本滞在中、私たちは吊り橋で有名な「明石海峡大橋」を訪れました。途中、神戸の街を一望

できる高いビルの最上階に上りました。大震災後に再建設されたであろう多くの新しく高いビルがとても印象的でした。また、街の中で印象的なのは、多くの人でにぎわう街の歩道はとてもゆったりとして混雑を感じさせませんでした。その歩道にはとても美しい花壇や花畑が広がり、写真をとらずにはいられませんでした。外国人としてとても印象に残ったことは日本人の親切さです。とても迅速にサポートしてくれます。ショッピングに行ったときなのですが、私たちは地図を持っているにもかかわらず探しているお店を見つけられずにいました。その時、一人の日本人女性に尋ねました。私たちは役に立つ日本語を少し習っていたので、日本語で話しかけてみました。彼女は日本語で説明し始めたのですが私たちが理解していないことに気づき、方向を指さしました。私たちがその方向に歩き始めたとき、彼女は私たちの前に出て、道を案内してお店まで連れていってくれました。彼女の親切さはたいへん素晴らしいものでした。

日本人について語るとき、忍耐、継続的な発展への探求心について語らずにはいられません。

困難にあっても彼らは決してあきらめず、忍耐強く耐えます。このような姿勢が継続的な発展への探求へとつながり（日本語で KAIZEN という言葉で知られているように）成功に導かれ、経済発展にもつながっているように思いました。

最後に、この研修は大変素晴らしいものでした。とても綿密に構成されており、教授や有名な機関から来られた講師の先生方は、みな豊富な経験と多くの知識を持っておられました。

講義は一方的なものではなく講師の先生方や研修員間で活発な意見交換が行われ、大変刺激的で実り多きものでした。同時に、これらの講義は私たちにとってとても力強いインパクトを与えるものでした。

